



Heart to Heart

「諦めるまでは可能性」

2008 年度半期こうのとり外来の成績

編集後記

Sさん

納得できるところまでは
トライする

結婚ししばらくすれば子どもは自然に授かると思った。体だって健康なのに何年経っても妊娠の兆候は現れてはくれなかった。29歳で結婚、本人はもとより周りも早く子どもを望んでいたのでも2年経った頃病院で検査を受けたいと夫に伝えた。夫は二人での生活でもいいのではと言ったが、調べてみたら夫側にやや問題ありという結果。それが夫には言いづらく、自分の中でも子どものいない生活もありなのかなと思うようにしていった。

結婚して8年経った頃、友人の家で諏訪マタの資料を目にした。彼女も長年他の病院で治療を受けていたが、説明会のこと、病院の様子など教えてくれて私にも受診を進めてくれた。それを聞いた時、私の中で何かが動いた。

早速夫に話してみたところ、行ってみたらと言ってもらえ翌日には受診していた。他の施設には全くない、個人を配慮したシステムと緊張感のない空間でとても驚いた。初めから体外受精を希望して説明会を受けて、その場の真剣な空気、私達と同じような大勢の参加や吉川先生の治療に対する熱意で夫の心も動いた。

しかし、その時夫は43歳で私は38歳、採卵をするのは3回までと最初に決めて始めてみたら、思いのほか受精卵が多く出来たので、私の思いは先に先にと広がっていた。双子でもいいな、男の子女の子の子両方がいいな、何度も卵の写真を見ては着床していることを願った。そしていよいよ判定日。

診察室に入ると吉川先生が申し訳なさそうなお顔で「ごめんねー妊娠してなかったわ」と、おっしゃった。

努めて冷静にお礼を言ったあと車の中へ飛び込んで涙が溢れた。

「初めてなんだから仕方ない、それにしても駄目な時ってこんなに切ないものなんだ。何がいけなかったのだろう」とあれこれ考えてもやり場のない悲しみは収まりがつかなかった。

この時、以前手にしていた倶楽部 K を改めて読み直して、初めて、今まで掲載されていた方々の芯の想いを感じることが出来た私だった。

その後数回の移植をしたが結果には結びつかなかった。ある回の判定待ちの時、年配の知人に「また今回も駄目だろう」というような愚痴を言ったところこんなことを言われた。

「どんなに小さくて形は卵であってもそれも命じゃないかしら。お母さんになりたいあなた自身がそんな風に思っていたらかわいそう。先生でさえ、二週間経たないとわからないことをどうしてあなたにわかるの?」

ハッとした。先生もスタッフの方々も、主人もみな一生懸命してくれているのに、肝心な自分がこんなことを思ってしまったなんて。その後に向かえた判定日、結果を待つ間初めて相談室を訪れてみた。倶楽部 K ではよく登場してくる、「話すと楽に

なる」、というこの部屋。私自身の性格上心の内側を誰かに話すということは今までは出来ないものだったが、実際カウンセラーさんを前にしたら、自分の中に溜めに溜め込んできていた悩みや不安、疑問など次から次へと口をついて出て来た。

その中で、「妊娠に向かっの医療のプロセスは皆同じ。そこから先は自分の力ではどうしようもないこと、これは卵の力。それを信じて祈るのみ」というお話しが出てとても心に残った。

話し終わったらモヤモヤは消え、「あー、もっと早くここへ来ればよかった」と自分のプライドを恨めしくさえ思った。

そして呼び出しの電話が鳴り吉川先生の元へ。「妊娠しています。反応が出ていますよ」考えもしなかった先生からの言葉にまともな返事も出来ず、また車に行くと、やっと事の事態がわかって涙が出て来た。

その時の子どもの出産を終え、2年近くたって2人目を、と再び諏訪マタを訪れた。おかしな表現かも知れないが、「帰って来た」という感じがした。前回の凍結卵が2回分。それだけのチャレンジと決めて来た。移植後の毎日は長く途中出血もあったので今回は無理かなと思いつつも、時間が出来ると以前からの倶楽部 K を引っ張りだしてきては読み返し、卵の写真を見ては、頑張れとつぶやいていた。

向かえた判定日、ものすごくラッキーなことに妊娠反応が出た。

子どもを持たた私だから、というのではなく、不妊と向き合った長い歳月で一番に浮かぶ言葉が「納得できるところまでは諦めなくて良かった」ということ。

外からはわからない子宮の中での出来事。何を努力していいかわからず、不安やイライラなどいろいろな感情が交錯する。だからこそ、せめて自分に出来ることの一つとして「卵の力」を信じて祈る、それは大切なことだと思った。そして先生の技術の高さ、スタッフの皆さんの温かさ、相談室や倶楽部 K の存在も諏訪マタならではの素晴らしさだと思う。不妊治療は私達を強くしてくれた。命について、とても深く考える機会を与えてもらった。そして、自分の、また他の人の痛みというものについても考えさせられた。全てが貴重な経験となった。



Kさん

吉川先生の“心配いらない”の
安心感

諦めた時にふっと妊娠する人もいる、その言葉がまさか自分に当てはまることになるとは思いませんでした。諏訪マタに通って7年、40歳の誕生日で治療は「おしまい」と思っていた私だったのですから。

32歳の時内膜症のオペをした後、妊娠を望むならば体外受精と告げられ諏訪マタへ転院をして吉川先生と出会いました。治療を始めればすぐできるような気がしていた私は“いい卵だったのに反応が出ていないなあ。1回あけてまた生理2日目に”と繰り返される先生の言葉にどうして駄目なのか、いつまで自分はこの状態のままなのかと思っていました。そんな中で5回、妊娠反応は出るものの心拍が止まってしまう形での流産を繰り返し、先へ進めない切なさで胸が押しつぶされそうになりました。37歳の時には水のおりものが多くなり、先生との相談の末に卵管を取るオペをしました。これをきっかけに今度こそ妊娠できるかも、そう期待して望んだ直後の治療もあえなく撃沈。この次はこの次は、今度こそきつと……。過去5回の妊娠反応がまるで嘘のように、毎回毎回かすりもしない判定値の連続。

お前の気の済むまでやればいい、そう励まし続けてくれていた夫からも“経済的にもキツくなってきた。欲しい気持ちはあるが、そろそろピリオドを視野に入れて欲しい”と言われてしまいました。

「夫にああ言われたら、本当におしまいだ。もう諏訪マタ通いが出来ない。赤ちゃんを持つことを諦めなければならないんだ」

40歳の誕生日が一つの節目、自分でもそうは思いながら続けて来た不妊治療。その誕生日を目前に、私は今までにない強烈な不安な気持ちに襲われました。丁度、実家に家族が集まった時のこと。姉には3人、弟には2人、子どもが大好きで保育士になった私には1人も居ないその空間。普段はかわいい姪や甥の存在が、この日はとても辛くて、でもそこで泣いたらみんなに心配をかけてしまう、ぐっと堪えていつも通りに笑顔で振る舞い、家に戻って大泣きをしました。泣いても泣いても辛さは消えず、やりきれな

い思いは相談室へ予約をしてぶつけました。

「もう、諦めなきゃいけないんだ。でもどうやって諦めていいかわかんないんだよ。」

結論の出ない、ぐるぐる巡るばかりの気持ちを口にだしている内に段々と落ち着いて、もう一度ゆっくり考えてみる、そういうことになり家に帰りました。

次の周期生理2日目、今まで通り病院には居ましたが、治療はこれで最後になるだろう、そんな悲しい予感でいました。採卵は6個、うち5個が受精し5日目の胚盤胞戻しで2つの命のお迎えに行きました。判定日の数日前より出血があったので、これはいよいよおしまいだーと思いながらも、ほんの少しの望みを持ち吉川先生の元へ。“反応が出ているんだよ。順調なら次の診察であかちゃんの袋が見える”と笑顔。えっ!?と戸惑いながらもほっとしました。久しぶりの妊娠反応ですが、ここからが問題の私。次週2つの袋が見えたものの出血が収まらずそのまま入院になりました。止まりそうで止まらない少しの出血に今までの流産のことが思い出され、イライラと不安が募りました。しかし1人の心拍は止まってしまいましたが、もう1人は生き続けてくれました。夏の暑い最中ずっと入院していた私は、北京オリンピックの放送を見ていました。金メダルをとった選手達のインタビュー、“夢は必ず叶う”がとても重く響いてきました。

今、8ヶ月に入り体つきが日々変化しあこがれの妊婦になって改めて思います。吉川先生へ、感謝しても仕切れないくらいの感謝。先生の“心配いらない”“大丈夫”はどれだけの安心を与えて下さったか。そしてスタッフのみなさん、何より支え続けてくれた夫。みんなにありがとうございます。そして、本当に諦めなくて良かった、その一言が今一番言いたい言葉です。



Yさん

どんな状況の時でも信じてる



希望を持って頑張るといっても、一人でいると不安になってくる。良い卵だったと聞いたのに判定結果はマイナス。年齢のせいでダメなのか、もっと若かったら悔しい気持ちになってもどうしようもない。父や母にも迷惑や心配ばかりかけている。

次も、またその次も駄目なんじゃないか、いつまで続くのだろう、いつになったら暗いトンネルの先へ行くことができるのだろう。どうしようもなく不安で、情緒が不安定になる。涙が出てくる。

いや、何を言ってるんだ、自分が自分を信じないでどうする、想い続けなくてどうする。

そんな思いに足掻いていた時夫はこう言った。“俺は今も信じてるよ。どんな状況の時でも信じてる。決して諦めない”。～

早く結婚し若いお母さんになるのが夢でした。でも結婚できたのが38歳。祖母も母も早い閉経なので不安で地元のS病院で診察を受けました。先生はとても親切にしてくださったのですが、待合室は総合病院なので妊婦や赤ちゃんを抱いた母親達ばかりで辛い待ち時間でした。その病院で夫婦での診察を進められたので不妊治療専門のK病院に転院しました。全国でも有名な不妊専門病院、結果はここでの治療は不可能とのこと。ここで駄目ならばこれから先どうしていけばいいのかさがる思いで院長先生に尋ねたのですが、その返事と態度はとても冷たいものでした。悲しくて切なくて夫婦で落ちこみました。

その後わずかな情報を頼りに、私達が治療を受けることのできる可能性のある病院を探し、諏訪マタニティークリニックにたどり着きました。最後の砦、まさにその言葉の通りもう本当にここしかなかった・・・。

最初相談室に電話で相談をさせて頂いたのですが、私達の今までの経緯についてとても親身になって聞いて頂きました。前の病院ですっかり医師に対しての怖さを持ってしまった私だったのですが、「うちの先生達は大丈夫」と言ってもらい、電話を切る頃には心の傷が癒えているのがわかりました。初めてお目にかかった時の根津院長先生は、本当に大丈夫、な方で私達目線で話を聞いて下さり素敵な笑顔をむけて下さいました。

私達は遠方なので諏訪マタへ来るのには片道10時間以上はかかります。体力的にも結構辛く、2、3日ぐらいは疲れがとれません。もちろん金銭的にも非常に大変です。それでも諏訪マタは、病院全体の温かさ、患者に対しての心配りなど全て他とは比べものになりません。だから頑張っただけでここまで治療に来られるのです。

2回目の治療で、数値は低いものの陽性反応ができました。1週1週気の抜けない通院となり、喜びと不安でドキドキしながら何とか8週目をむかえ、10週目には晴れて諏訪マタを卒業すると思った途端、

流産。次の日すぐに手術となりました。

吉川先生が心配していた頸管妊娠だったため、手術中、出血量が多くなり大変な手術になったようでした。

少し前なら子宮ごと摘出になっていたし、このまま妊娠が進んでいたら大変な出産になっていたといわれ、吉川先生と、赤ちゃんから私は命を助けてもらいました。

しかし、この流産をきっかけに今までは黙って見守ってきてくれていた両親に、年齢のこと、通院の負担などこれ以上治療することは反対だと言われ、その思いがものすごく身にしみて、申し訳なさやいろんな感情が湧き出てきてしまいました。

そんな中でも、もう一つだけ残っていた凍結卵を移植し、また低いながらも妊娠を示す数値が出ました。しかし、おなかの中で頑張っているはずの命に向かって“前回ダメになった回の時の卵だから、きっと弱いな。こんなことなら、今のうちにダメになり、新たに採卵からやり直し、良い卵で治療したい”という思いが私の頭に渦巻きました。

今までは、治療をしてもらえる施設と巡り会えた喜びが一杯で走ってこれたのですが、実際治療を体験してみて「不妊治療」の辛さを痛感しました。

両親が心配していること、自分の気持ちのコントロールが出来なくなって情けないこと etc、思いのままを夫にぶつけました。「人に言われて気持ちが揺らぐようなら、治療などしないほうがいい。」とかなり怒られました。そしてその時に「俺はどんな時でも信じてる。諦めない」と言われたのです。

私の非情な思いがお腹に伝わったのかすぐに妊娠反応はなくなってしまいました。この時一瞬でもダメになればいい、などという感情を持った自分を心底悔いました。

ここで治療を始めて一年。今回ギリギリですが、なんとか年内に治療を受けることができました。判定日は30日、昨年に続いて院長先生から判定結果を聞くことになりそうです。(お久しぶりにお会いできるのを楽しみに)

遠方から来る私達に“年末だから、道、混んじゃって大変かなー?”と、言葉をかけてくれた吉川先生。本当にお忙しい日々の中に、こんな風にふっと患者を気にかけてくれる吉川先生。そして毎回必ず診察前と診察後に寄らせて頂く相談室は、どんな些細な話しでも真剣に向き合ってくれます。相づちをうってゆくり聞いてくれて、ホッとする優しい言葉をくれる。いつでも不安と隣り合わせで、気持ちが上下しやすい私達にはこういう場所がすごく心強く必要なのだと思いました。

信頼できる先生、諏訪マタのスタッフの皆さん、応援してくれる家族、友達がいる、だから一人じゃないと感じられるようになりました。二人が納得できるまで諦めない、諏訪マタに出会えた私は幸せだ、と心から思っています。

〇さん いつか卒業できる日が 来ることを願って

結婚して3ヶ月通った婦人科では不妊検査とタイミング指導を受けていました。特にこれといった所見はなく、すぐに妊娠できるものだと思っていました。

知人の勧めがあって諏訪マタに転院しました。超音波の所見で吉川先生は「子宮にポリープがあるんじゃないのかな。」と言いました。耳を疑いましたが、翌月、子宮鏡検査を受け、子宮内膜掻爬術でデコボコを取ってもらいました。これで不妊治療がスタートできると思ったのも束の間、翌月受診すると過酷な診断が待っていました。診断は子宮体ガン。多くの女性に見られる頸ガンでなく、よりによって体ガン。驚きと絶望で顔が腫れ上がるまで泣きました。先生から黄体ホルモン療法で子宮を温存、ただ効く場合とそうでない場合がある、と聞きました。ほかに道はなく、気の遠くなるような治療が始まりました。ホルモン剤を服用し、定期的な内膜掻爬で細胞を診てもらいました。

不妊治療に通うつもりだったのに、私には生理も排卵もなくなっていました。この間、本当に抜け殻みたいな日々を送っていました。それでも、ホルモン剤を欠かさず飲み、これが私を救ってくれるはずだと言いつつも夫には「今ある命の方が、これから生まれ来る命よりも大事だよ。」と言ってもらい、だから諦めず何とか頑張ろうと思えました。

吉川先生には、考えをちゃんとまとめていなくてしどろもどろで怒られたり、時間に間に合わなくて怒られたりさんざんご迷惑をおかけしてきました。でも、病気の事、治療内容、不安な事は受診前にしっかり練り、短い診察時間の中で漏れなく聞くようにしました。先生は私の話をよく聞いて下さり的確に答えて下さいます。

また病気の際は外来後の時間を割り、私達夫婦にゆっくり分かり易く説明して下さいました。ガンを治してくれる病院は他にあっても、ガンを治して尚かつ子供を持たせてくれるのは吉川先生しかいない、と夫婦で話し合いました。

毎回の診察、採卵、移植、どれを取っても誠意があり、真剣に私達患者と向き合ってくれる吉川先生はすごく頼り甲斐があります。自分でもいろいろ勉強しましたが、中でも「このとりの贈り物」は100回位読んだと思います。治療方針と何より先生の治

療に対する考え方がよく分かります。しっかりと読めば無知な質問をしなくて済むし、変な産婦人科医よりも不妊治療について詳しくなること間違いありません。(笑)

諏訪マタは、遠くても混んでいても、受付から帰るまでがどの婦人科よりもスムーズです。一番は能率の良さです。先生の淡々とした診察も、他の人を待つ時間を思えば本当にありがたいことです。某婦人科では、4人しか待合室にいないのに、2時間も待たされていました。診察室から聞こえてくる世間話や妊婦さんの楽しそうな会話、イライラと憂鬱にならない訳がありません。

先生から半年、それとも何年かかるかと言われていた黄体ホルモン療法は、幸運にも8ヶ月程で終わりました。やっと不妊治療が始まる、そう思うと嬉しさが胸がいっぱいでした。生理が来て、毎月一喜一憂できる日々がどんなに素晴らしいことか、と思いました。子宮の異常を疑ってくれた吉川先生は私の恩人です。先生に診て頂かなかつたら未だ呑気にタイミングを続けて、病気が進行し、子宮を摘出、若しくはもっと悪い結果になっていたでしょう。いつか自分が死ぬ時が来て、走馬燈のようにお世話になった方々を思い浮かべる時、吉川先生は真つ先かなあ。それくらい、本当に先生には感謝、感謝です。

命拾いしただけでも幸運だけれど、やっぱり我が子は欲しいです。「若年性のガンだから再発がないとは言いきれない。一刻も早く妊娠することが大事。」と言われ、体外受精を早い段階で視野に入れました。1回目は、7つ採卵、5つ受精、2つ移植しました。その後5回目までは、採卵してもフラグメントが多いのでグレードが悪く、余剰卵も5日目まで育たず、凍結は一度もできません。胚盤胞でお願いした周期は、全て育たずキャンセルでした。体外受精さえすればうまくいく、と思う節が自分にはあったので、現実には厳しいなあと思いました。その都度先生は、「次、がんばろう。」と言ってくれます。

そして今月、6回目の判定日に、夢にまで見た妊娠反応が出ました。5年近く悩み続けたことからやっと解放されると思うと、嬉しさが舞い上がりそうでした。でも、残念ながら5週で初期流産になってしまいました。それでも、二日目新鮮胚でちゃんと着床したこと、病気後、内膜に異常があるのでは、と不安だったことを思えば、大前進だと思っています。

この原稿を受けた後、妊娠反応が出たのでハッピーエンドでチャンチャン、のつもりでしたが、まだまだ私の治療は続くことになりました。自分の家族、理解ある職場の同僚、吉川先生をはじめ、優しい看護師さんや培養士さん、スタッフの皆さん、カウンセラーの渡辺さん、そして嫌な顔せず治療に付き合ってくれる夫。多くの人が支えてくれて通院が続けられる私は幸せだと思います。どんな結果が待っていても、諏訪マタでやるだけやったら後悔はしないと思っています。まだこれから先も吉川先生に会えるのは嬉しいけれど、いつか先生に「よく頑張ったね」と言ってもらい卒業できる日が来ることを心から願っています。



Q&A

〈相談室ではこんなことを聞いてください〉

相談室には、看護師、培養士、カウンセラーの3つの異なるスタッフが居ます。みなさんが不安や疑問に思うことについてお入り頂ければ、随時お答え致します。

看護師には

- ・ 薬の飲み方
- ・ 検査について
(性交後検査・子宮鏡・卵管造影)
- ・ 診察室での内容を再確認
- ・ 内膜症・筋腫のこと
- ・ 子宮内膜ポリープ
- ・ 今後の治療について
- ・ ステップアップについて

培養士には

- ・ IVFの説明会を聞いたが分からない所
- ・ なぜ卵が採れなかったか
- ・ なぜ受精しなかったか
- ・ 分割卵の状態
- ・ 凍結卵の状態
- ・ 胚盤胞移植について
- ・ 移植後の生活の仕方
- ・ 顕微受精をした方がいいか
- ・ 人工授精について

カウンセラーには

- ・ 仕事との両立
- ・ 家族・夫婦間の問題
- ・ 治療への向かい合い
- ・ 気持ちの行き詰まり
- ・ 治療への不安

診察時間内なら、どなたでもご自由にお入り頂けます(15分程度)。ゆっくりお話しになられたい方は予約しておでかけ下さい。

治療成績

2008年1月～7月治療成績

一般不妊 (IUI 含む)		193
IVF	採卵	893
	移植	721
	妊娠	245

編集後記

小平

朝昼晩3食パンでもOKという程のパン好きの私ですが、先日NewOpenのお店に行ってきました。1回目は完売のためすでに閉店。2回目は定休日、3回目です。やっと買ったパンだったのでどれも格別においしく感じられました。どなたかこんな私に、おいしいパン屋さんをご存知でしたら教えてください。

岡村

先日自転車を購入しちょっとしたエコライフを送っています。ただ自転車に乗るのは10年ぶりくらい、怖い怖い。危険を察知したらすぐに自転車から降りるおば様達の気持ちがよくわかります。今じゃ私もすぐに降ります(汗)「これなら歩いた方が早いんじゃないか?」と自分に突っ込みながら乗っている私のエコライフは続きます。

小林

世の中の不景気と比例してか私の物欲も低下気味です。毎日慌ただしくしているせいか、ショッピングなんて時間もなく……。テンションをあげるためにもゆったりとした時間とお財布のひもを緩めていけたらいいなあと思います。

保科

最近ハムスターが家にやってきました。最初はなかなか巣の中から出てこなかったり手を出すと囁まれましたが、そのうち名前を呼ぶと顔を出してくれようになりました。食べ物を手で持ってガジガジと食べたりちょこちょこ走り回っているのを見て心ななです。

中島

友人がどうしても行きたいと言うので先日伊勢神宮へ行ってきました。6年生の修学旅行で行った記憶がとても久しぶりでした。夫婦岩から朝日を見た記憶はあるのに伊勢神宮の記憶はさっぱりなし。とても綺麗で手入れのされた内庭が色合いは地味だったけれど印象に残りました。日本庭園に目覚めたのでこれから庭園めぐりをしてみようと思いました。

渡辺

ある大学に講義で出かけた院長に同行した時の話。遅れて入ってきた青年は席に着くやコンビニの袋をがさつかせ中からサンドイッチの袋を取り出した。“おいおい、おにいちゃん、キミそれ今食べるんかい?”慌ててトントンと青年の背中を叩き、ゼスチャーで××と静止のサインを送りましたが、はあ?おばさん何言ってるの?という表情が返ってきました。会場内には、帽子をかぶったままの人、コートを着たままの人も多く居て、KY(空気読め)などという言葉が流行っていますが、TPO=場の流儀は、誰がどう教えていくものなのかと考えさせられました。